

池田町内案内マップ

池田山麓コース

(お茶畑と自然を満喫するコース)

距離：約15km／時間：約60分

火の見櫓を探そう！

池田町の安全を守ってきた

火の見櫓を探そう！

1～13

形もさまざまでおもしろいよ！



岐阜「じまんの原石」



サイクルトレインもある養老鉄道



池田山山頂



池田の森



大津谷公園



願成寺西墳之越古墳群



ナツツバキ

登山で

- 霞間ヶ溪・大津谷～池田山山頂まで……………片道5時間／5km
- 霞間ヶ溪～パラグライダー飛行場まで……………片道3時間／3km
- 大津谷～パラグライダー飛行場まで……………片道2～2時間半／2.45km

池田町は歴史あるお茶の町

池田町のお茶の歴史は古く、室町時代にはすでに茶園があったとされます。池田町は池田恒興(織田信長の乳兄弟。子の輝政は姫路城を築いた)ゆかりの地でもあり、この墓を代々守ってきた龍徳寺は池田のお茶を池田家に献上してきました。本格的な生産が始まったのは江戸時代末期。寛政5年(1793)、宇治から茶師を呼び寄せて本格的な茶園を造り、煎茶の製造に取り組み始めてから、茶農家が増えていきました。その後の文政5年(1822)、和紙を使った製茶法を導入し、甘味のある良茶が製造されるようになりました。ここで生まれた「美濃茶(池田のお茶)」が現在の美濃いび茶の発祥です。美濃茶は江戸幕府御用達の茶として知名度を上げ、さらに生産量を増えています。

池田町で生産された茶は、現在「美濃いび茶」としてブランド販売されています。岐阜県内における生茶葉の収穫量は、揖斐川町、白川町に次いで池田町は第3位。栽培面積に対して生産量はやや少ないですが、山裾の傾斜地は農機具が入らず伝統的な手摘みを行う茶農家もあるという、丁寧な茶作りにこだわっている証です。美濃いび茶の中でも高い品質を誇るのが池田のお茶なのです。



茶畑



国・名勝天然記念物
霞間ヶ溪の桜

池田温泉 本館・新館



雲上の桜



ハリオ池



イチョウの大木